

番組審議委員会議事録

松竹ブロードキャスティング 株式会社

- 1.開催年月日 令和元年 12 月 3 日（火） 12：00～13：30
- 2.開催場所 銀座東武ホテル
- 3.委員の出席 委員総数 7 名
出席委員数 6 名（伊藤信太郎、堀江ミエ子、松本淳、松本行央
太田博、植草信和）
欠席委員数 1 名（坂田藤十郎）
- 4.放送事業者側出席 4 名（井田寛：代表取締役社長
松倉浩二：取締役・営業担当
鵜澤由紀：取締役・編成・宣伝担当
磯本亜未：ホームドラマチャンネル部・副部長）
- 5.議事の概要
 - ・ 経営報告
 - ・ 営業報告
 - ・ 衛星劇場の現状報告
 - ・ ホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・ 質疑応答
- 6.議事内容
 - 経営報告
 - ・ 有料放送市場はのびておらず、厳しい状況。
コスト減だけでは限界がある為、衛星劇場とホームドラマチャンネルの相乗効果で加入を伸ばしたい。
来期はホームドラマチャンネルの世帯数 510 万超を目指す。
 - ・ 2020 年は松竹キネマ 100 年となるので、グループ全体で盛り上げていきたい。
 - ・ 今期も現時点では、黒字となる予定。ホームドラマの広告収入は以前より厳しい状況となったが踏ん張って維持をしている。
ノースクランブル放送や一挙放送など編成と連携した対応を行っており、

徐々に効果が出てきていると思われる。

○営業報告

- ・衛星放送事業マーケットは、メジャーチャンネルが配信へと方向転換し、一部外資系チャンネルの撤退話で業界を騒がせたニュースがあるなど、今年も厳しい状況は続いている。
- ・そんな中スカパー！は、昨年から実施した複数台キャンペーン（3台目契約まで無料）を9月までキャンペーンを延長し、目標であった500万件を昨年末に到達し、510万件まで契約を伸ばすことが出来た。
- ・中村倫也出演舞台「クラッシャー女中」の放送では、加入獲得キャンペーンにあわせてJ:COMでは説明会を行い、スカパー！では全国を対象とした過去衛星劇場加入者へのダイレクトハガキなどを送った。それにより今期最高の月間4,254件の獲得が出来た。編成のヤマ場に合わせて強力な営業施策を打つ事により加入獲得につなげられたことは今後の営業戦略の柱になる。

○衛星劇場チャンネル

- ・映画、舞台、韓流の3本柱を軸に放送。
- ・韓流はメジャーなキャストはいなかったが韓国で異例の大ヒットとなった「SKY キャッスル」や時代劇「へち」が比較的好調だったが、全体的には配信などの競合もあり大作を編成することが厳しかった。
一方で韓国のスター：キム・ヒョンジュンのオリジナル番組「生ヒョンジュン」を放送し新規顧客を獲得した。
- ・映画はメモリアル特集として「生誕100年”職人”野村芳太郎のフィルモグラフィより」「生誕100年記念 監督・川島雄三の足跡～全作放送～」を編成。特に川島雄三監督の全作放送は視聴者からの反響があった。
- ・舞台は歌舞伎座収録番組からスーパー歌舞伎、シェイクスピア、2.5次元、ミュージカル・コンサートなど品揃えを豊富にしたことで加入の積み上げを図った。

○ホームドラマチャンネル

- ・ジャンルの3本柱の基本方針は変えずに編成。
- ・時代劇は、「鬼平・剣客・必殺」シリーズをレギュラーで放送。その他はHD初放送として、「おんな浮世師紅之助参る！」（1974・NTV）小川真由美の放送や、西城秀樹×千葉真一「徳川無頼帳」（1992・TX）など、を放送。1月放送開始の「徳川無頼帳」は西城秀樹の根強い人気に期待し加入獲得をめざしての編成。

- ・国内ドラマは、TX（テレビ東京）やNHKのCS初放送作品に加え、旧作の高視聴率ドラマを編成することで、宣伝面で多数露出することが出来る。
- ・華流は、現代劇を中心に年間5本の日本初放送作品を放送。ラブコメが主流な中、台湾・初の法廷モノの放送も行った。（9月リーガル・サービス）ジャンルを違えても視聴率の大きな増減がないので、華流ドラマの固定ファンがおり、継続視聴がされている模様。
- ・放送時間のリニューアルを実施し継続視聴で視聴率UPを図る

○質疑応答

Q：各社が争奪戦だった上田監督の新作「スペシャルアクターズ」を製作・公開されたことは素晴らしい。

A：コンテンツを持つことは重要なことと捉えている。

Q：現在は放送・配信でTV画面が取り合いになっているのか？

A：専門店ならではの品揃えのように一定の顧客と向き合い獲得出来るような工夫が必要。

以上